

首都圏の会津出身者ら

NPO法人発足

美里新鶴にワイナリーを



新鶴地域にワイナリー建設を目指す会員

会津美里町新鶴地域にワイナリーを造ろうと首都圏在住の会津出身者らでつくるNPO法人「会津ワイナリー会」が発足した。会津のフ

新鶴地域は上質のワインブドウの産地だが、地元ワイナリーがないため、会津出身者でつくる「会津赤べこ会」が中心となり準備してきた。現在の会員は約三十人で会津出身者だけでなく、首都圏のワイン愛好者や経済人も名を連ねている。

古里の地域活性化と新たな観光資源にすることも目指す。平成三十年の建設が目標で、将来的には周辺に公園やレストラン、体験施設などの併設も計画している。

会員や賛助会員を募り、新鶴地域でブドウを栽培していく。既に遊休農地を借り、三十本を植樹している。

総会では今年度新たに畑を借り、さらに苗木七十本を植えるなどの事業計画を決めた。会長で同町出身の大越康弘さん(会津赤べこ会代表)は「新たな誘客を図り、遊休農地の解消など農業振興に寄与していきたい」と話している。

協力者にはワインなど町内の産品を贈ることも検討している。問い合わせは事務局(会津赤べこ会事務局) 電話03(5261)0102へ。